



校長室だより

黒部市立荻生小学校
文責：校長 寺島紀子
令和4年12月6日
第34号

保護者の皆様には、先週1日(木)、2日(金)の個別懇談会へのご出席、ありがとうございました。2学期も残すところあと3週間となりました。学校では今学期のまとめとふりかえりを通して、一人一人の子供が自分の成長を感じ取れる機会を大切にしていきます。

「4年生環境チャレンジ取り組み隊」の主体的な取組

このところ校内のあちらこちらに電気の節約等と呼びかける手作りのポスターが掲示されています。地球温暖化等、環境のことを学習してきた4年生が「環境チャレンジ取り組み隊」として、よい取組を学校全体に広げようとしているのです。合わせて、時々お昼の放送でもいろいろな提案をしてくれています。たとえば給食はできるだけ食べ切る方が環境によい(残食分を処理するのに火力や電力を使うことになるから)など、大人でもなるほどと思う内容です。

何より嬉しいのは、学習したことを生かし、よいと思うことを自分たちで学校全体に広げようとする子供たちの主体的な姿です。まさに「みんなでももにつくろう 笑顔いっぱい学びいっぱい 荻生小学校」を具体的に表している姿だと思います。

荻っ子の成長を感じた2つの集会

先週は全校での集会が2回もありました。そのいずれも、子供たちの大きな成長を感じるものでした。

① 11/30(水) 受賞を清々しく祝う授賞集会

入場から整列、着座と全校どの学年も落ち着いていて、進行の霜野先生が「改めて号令をかけなくてもいいですね」と話されるほどでした。市の善行賞や発明工夫の県知事賞といった大きな表彰が多く、受賞する子もフロアから拍手をする子も、それぞれ態度が立派で、皆で受賞を祝う空気がありました。集会後の長島先生(生徒指導担当)の話も真剣に聞いていました。

② 12/2(金) 笑顔いっぱいスマイル(人権)集会

4日~10日の人権週間に合わせ、6年生が企画しました。まず、このほど策定された「名水の里くろべ こどもの権利宣言」が紹介されました。8月の作成委員会に参加した2名の子が中心となり、劇も交えて分かりやすく説明していました。

その後、人権や福祉に関する3択クイズが出され、皆で知識を深めました。その後は、全校が仲良くなれるようにと「もうじゅう狩りゲーム」があり大盛り上がりでした。さらに、休み時間に取り組みめる「文字探し」の企画もありました。

6年生のアイデアと一人一役での活躍のおかげで、全校が楽しく入り交じって触れ合える集会となりました。1~5年生も進んで質問したり素直な感想を発表したりして集会を盛り上げました。

今回、感染状況が比較的落ち着いていたことも幸いしました。全校でのこうした時間をもつことができ本当によかったです。

★この「校長室だより」のカラー版は本校のホームページをご覧ください。★ご意見、ご感想をお待ちしています。下に記入しご提出ください。



実践後の振り返りも大切に ～スマイル集会後の6年生は～

今回の集会に向けて6年生が取り組んできた様子は、先週の学校ホームページでも紹介しましたが、以前、担任の鈴木先生からも「どの子も進んで、楽しみながら自分の仕事をしています」との嬉しい経過報告を受けていました。もしかすると、運動会、音楽会と大きな山を越えた6年生にとって、今回の集会は新たな大きい取り組みがいのある活動だったのかもしれませんが。進んで、楽しみながら、というのがいいですね。

そしてスマイル集会終了直後、2日（金）の2限目に6年教室をのぞいてみると、ちょうど活動の振り返りをしているところでした。集会が大成功に終わって大きな達成感を確かめ合うだけでなく、一人一人が自分の役割や責任を果たして活動することで、どのようなことを学ぶことができたのかを振り返ることが大切だろうと思います。

荻っ子が学校生活の新たな課題を見つけ、次の活動につなげていってくれることを期待しています。

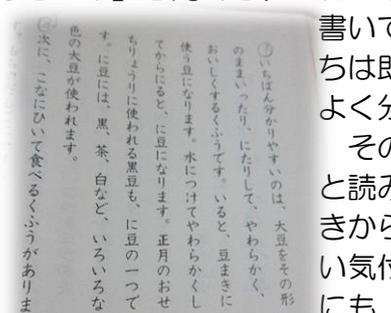


シリーズ「教室におじゃまします」 11/30(水)3年国語科の巻

3年生2学期の説明的文章といえば「すがたをかえる大豆」です。今回は中心となる語や文を見つけて要約することが大事な学習となります。この日は「はじめ・中・おわり」の「中」に当たる③～⑦段落に注目し、各段落1文ずつ「大事な文」を選び、傍線を引いていきます。



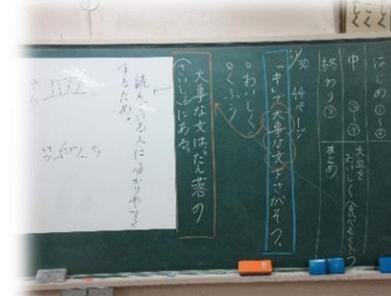
③段落の場合は「いちばん分かりやすいのは、大豆をその形のまゝいたり、にたりして、やわらかく、おいしくするくふうです。」岡本先生が「どうしてこの文だと言えるの？ ポイントはどこ？」と聞くと、「おいしくするくふう、って書いてあるから」と子供たちは即答します。なかなかよく分かっているようです。



その後も④、⑤、⑥段落と読み進めるうちに「さっきからさ、大事な文は1番最初の文ばかりだ」という鋭い気付きをつぶやく子が出てきました。「1つの段落の中にも『はじめ・中・おわり』があるみたい」「なるほど」



各段落の最初の文に要点があり、2文目からは、きなこ煮豆、みそなど、具体的な食べ物（大豆加工品）の説明となっていることに気付いたようです。そして「これは読者に分かりやすく内容を伝えるための工夫ではないか」と、ここまで考えることができました。活発に考えを出し合う姿が頼もしく見えました。



おまけの<ひとりとごと> 先日、知り合いのある校長先生（黒部市以外の小学校です）と電話で話しました。全校20学級以上の大きな小学校ですが、このコロナ禍でも、今年度はできる限り全校集会を続けておられるとのこと。エネルギーなその方らしく、「ここ数年で子供たちの『豊かな体験の貯金』がどんどんなくなっていることがとにかく心配、残念…」と語っておられました。まったく同感です。コロナの感染状況がやはり気になるところではあるのですが、一方では子供にとって本当に大事なことを考え続けていかないと、と心を新たにしました。今回のスマイル集会が子供たちにも我々教員にとっても本当によい刺激となりました。

★この「校長室だより」のカラー版は本校のホームページをご覧ください。★ご意見、ご感想をお待ちしています。下に記入しご提出ください。